

第3編

地域別構想

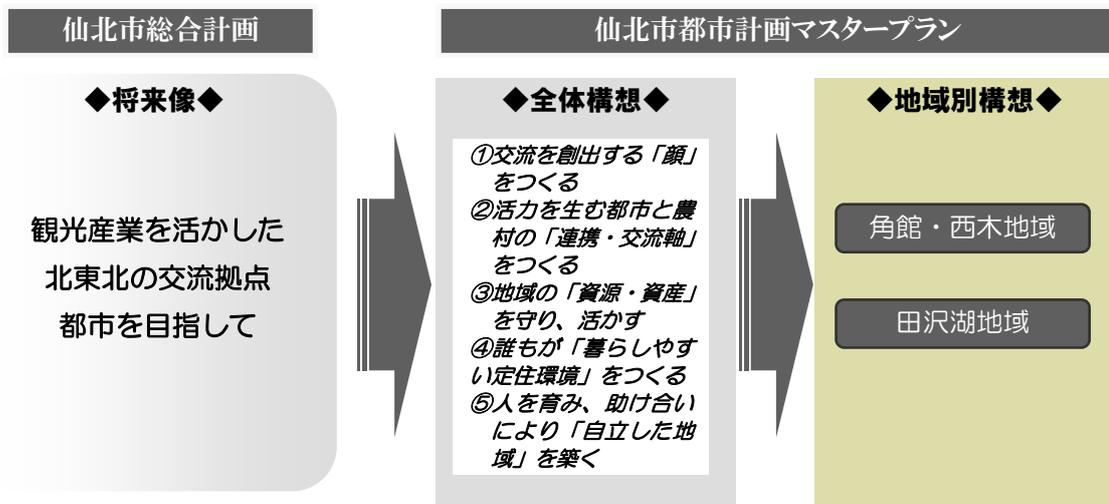
第1章

地域別構想の位置づけ

1 地域別構想とは

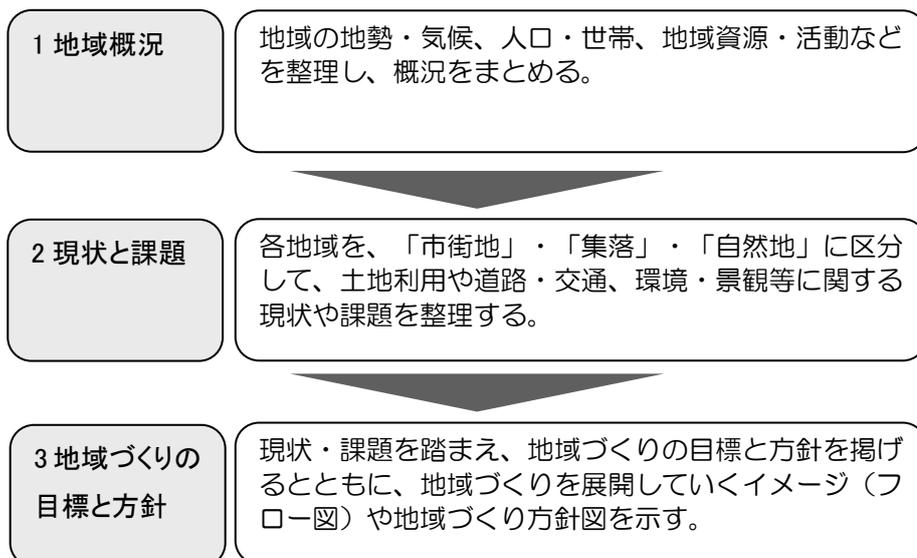
(1) 位置づけ

地域別構想は、全体構想で示された市全体の方針を受けて、より身近に生じている問題や課題に対し、地域ごとに目標や方針を定めるものである。



(2) 構成と内容

地域別構想は「地域概況」、「現状と課題」、「地域づくりの目標と方針」で構成する。



2 地域区分の考え方

地域別構想の地域区分は、将来都市構造の考え方を踏まえ、地域生活圏である「角館・西木地域」と「田沢湖地域」とする。



図:地域区分

地域区分表

地域区分	地区名
角館・西木地域	角館、中川、雲沢、白岩、神代、西明寺、桧木内、上桧木内
田沢湖地域	生保内、田沢

第2章

角館・西木地域

仙北市総合計画

将来像

まちづくりの理念

観光産業を活かした北東北の交流拠点都市を目指して

観光産業を活かした
まちづくり

歴史と文化が息づく
まちづくり

ふるさとを愛し誇れる
人づくり

誰もが安心して暮らせる
まちづくり

定住人口
～目標～
3万人維持

交流人口
～目標～
テンミリオン

仙北市都市計画マスタープラン 【全体構想】

都市づくりの目標

1 交流を創出する「顔」をつくる

2 活力を生む都市と農村の
「連携・交流軸」をつくる

3 地域の「資源・資産」を
守り、活かす

4 誰もが「暮らしやすい
定住環境」をつくる

5 人を育み、助け合いにより
「自立した地域」を築く

地域づくりの目標と方針

◆目標1【市街地】◆

城下町の町割りを尊重し、町並みの保全と向上に努めながら、角館・西木地域の中心として、求心性と回遊性を兼ね備え、快適な暮らしと魅力ある観光を支える市街地をめざす

- 歴史的な町並みの連続性の確保と自然環境の保全と活用
- 市街地の拠点機能と交通ネットワークの強化
- 安全で快適な生活環境の創出

◆目標2【集落】◆

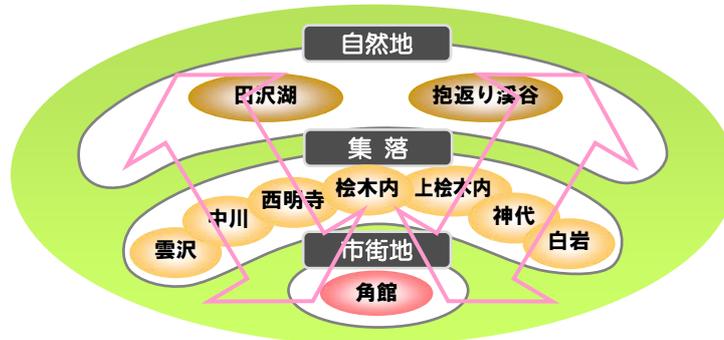
個性ある伝統文化・行事やグリーンツーリズムなどの交流を通じて、地域自治力を高め、市街地と連携しながら、協働で、安心して住み続けられる集落をめざす

- 快適で魅力ある生活環境の創出
- 利用ニーズに適した交通手段の確保
- 伝統行事やグリーンツーリズム等を活かした交流の創出

◆目標3【自然地】◆

玉川や桧木内川が流れる仙北平野と三方を取り囲む山々が織りなす美しい風景が守られ、地域活性化につながる自然地をめざす

- 農山村・田園風景の保全と育成
- 自然環境の保全と観光拠点の強化



1 地域概況

各地区の概況は、以下に示すとおりである。

地 区	概 況
角 館	<ul style="list-style-type: none">・ 仙北平野の玉川と桧木内川に沿った城下町で、三方を山々に囲まれている。・ 市街地内に点在する枝垂れ桜が国の天然記念物に、桧木内川堤沿いの桜並木が国の名勝に、武家屋敷通りが国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。・ 交通の要所であり、本市の都市機能が集積している。
中 川	<ul style="list-style-type: none">・ 桧木内川の西側に位置し、山間を縫うように県道日三市・角館線が通り、沿線に集落が形成されている。・ スマイルバスが運行しており、日常の交通を支えている。
雲 沢	<ul style="list-style-type: none">・ 本市の西側の玄関口で、東西に国道 46 号が、南北に県道本荘・西仙北・角館線が通る。・ 南部の集落には、スマイルバスが運行しており、日常の交通を支えている。
白 岩	<ul style="list-style-type: none">・ 玉川が流れる豊かな水田に集落が点在し、南北に県道大曲・田沢湖線が、東西に県道広久内・角館(停)線と白岩・角館線が通る。・ 雲巖寺は、本市では最も古く 1450 年の創建で、山門は秋田県有形文化財に指定されている。また、昔から焼き物が盛んで、白岩焼が伝わっている。・ デマンド型乗合バスが運行しており、日常の交通を支えている。
神 代	<ul style="list-style-type: none">・ 仙北平野の広大な農地を抱え、美しい田園風景が広がっており、東西に国道 46 号が通る。・ 新緑、紅葉の名所である抱返り溪谷が、白岩地区とまたがって位置しており、県立自然公園区域の指定を受けている。・ 「たざわ芸術村」が地域に息づく文化を全国に発信しており、多くの観光客を集めている。

地 区	概 況
西明寺	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北部には山岳地帯、南部には仙北平野が広がっており、南北を国道 105 号と秋田内陸縦貫鉄道が通る。 ・ 東に田沢湖へとつながる県道田沢湖畔線が通り、田沢湖畔にはたっこ像やむらっこ物産館、かたまえ山森林公園などの観光スポットが集まっている。 ・ 農家民宿が点在しており、グリーンツーリズムによる交流が盛んである。
桧木内	<ul style="list-style-type: none"> ・ 田沢湖の西側に面しており、南北に国道 105 号と秋田内陸縦貫鉄道が、東に田沢湖へとつながる県道田沢湖・西木線が通る。 ・ 中里のカンデッコあげや裸祭りなどの伝統行事がある。
上桧木内	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本市の最北端に位置しており、南北に国道 105 号と秋田内陸縦貫鉄道が、東に玉川ダムへとつながる県道上桧木内・玉川線（冬季閉鎖）が通る。 ・ 廃校となった校舎を多世代交流施設「山鳩館」として活用しており、デイサービス事業や保育事業などが行われている。 ・ 紙風船上げが冬の風物詩となり、多くの観光客を集めている。

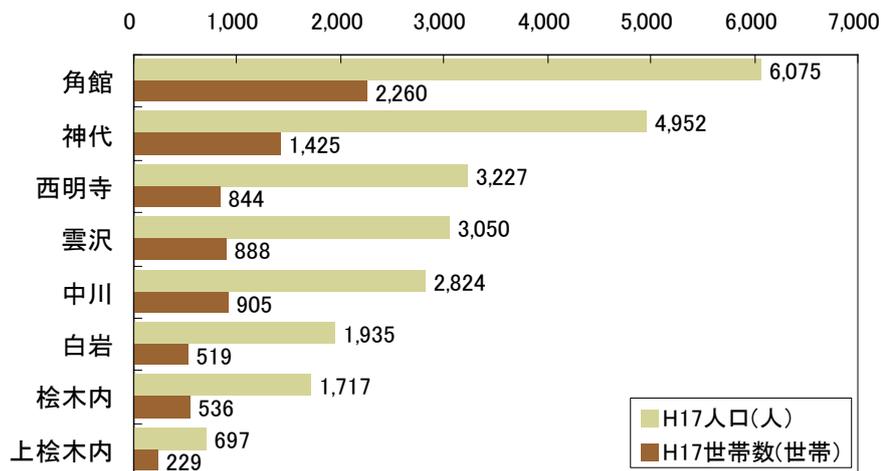


図:各地区の人口と世帯

資料:国勢調査(平成 17 年)

2 現状と課題

角館・西木地域の現状と課題を、「市街地」と「集落・自然地」に分けて整理する。

(1) 市街地

◆町割りを活かしながらの生活環境の改善と観光地の魅力向上

角館地区の市街地は、城下町の町割りが色濃く残る歴史的な市街地であり、清浄感溢れる佇まいを醸し出しており、多くの観光客を魅了している。しかしながら、市街地の中心部まで人口減少が及んでおり、多様な生活ニーズへの対応が求められている。

そのため、町割りを保ちながら、観光地としての魅力を高めるとともに、生活環境を改善していく必要がある。

◆角館駅周辺の有効な土地利用

市街地の東側に位置する角館駅前では、城下町の町割が残る旧市街地に比べ、利用されていない土地が目立っている。

公共交通の結節点である角館駅周辺の魅力を高めていくことは、公共交通利用者の増加につながり、観光客の回遊や公共交通サービスの安定をもたらすため、駅周辺の土地を有効に活用していく必要がある。

◆角館駅東側の有効利用を促す、駅東西の連絡強化

角館駅東側は、国道105号線が通る交通利便性の高い地域で、住宅や商業施設が建ち並んでいる。また、多目的広場や街区公園が整備され、市街地の新たな玄関口としての利用が予定されていることから、駅東西の連絡を強化する必要がある。

◆歩行者の安全性・快適性の確保

旧市街地の中央を縦貫する武家屋敷通りは比較的広い幅員構成となっているが、城下町特有の狭小な街路が多く残っており、通過交通などによる生活の安全性や快適性が懸念されることから、街路網の再構築と歩行者にやさしいみちづくりが必要である。

◆観光客の回遊を促す良質な歩行空間の形成

観光客の多くは、自家用車や観光バスで訪れ、武家屋敷通り付近に駐車し、すぐに帰ってしまう『通過型観光』が主流となっている。

武家屋敷通りの観光客を、商店街や角館駅前に引き込むことが、地域全体の活性化につながるため、商店街や角館駅前の魅力を高めるとともに、歩きたくなる空間を形成する必要がある。

◆桜まつりの混雑緩和と安全性・快適性の確保

本市で最も観光客を呼び込む桜まつりでは、駐車場の確保や計画的な交通誘導、情報案内などの対応を行っている。

引き続き観光客の安全性と快適性の確保に努めるとともに、市街地内だけでなく市全体の回遊を促す交通戦略が求められる。

◆武家屋敷通りの保存と、周辺地域の町並みの形成

武家屋敷が立ち並ぶ「内町」は城下町建設以降 400 年近く、ほとんどそのままの状態に保存されており、1976 年(昭和 51 年)に国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されている。

また、町人町であった「外町」においても、町割りが維持されており、古くからの建造物が点在して残っている。

そのため、武家屋敷通りの保存に向けた取り組みを強化するとともに、周辺においても、歴史的市街地としてふさわしい町並みを形成する必要がある。

◆里山の保全と活用

市街地内や周辺には、古城山や田町山、花場山、大威徳山など緑豊かな環境が広がっており、地域住民に親しまれ、まちのシンボルとして城下町の景観に彩りを与えている。

そのため、これらの里山の保全を強化するとともに、町並みを一望できる場所として環境を整える必要がある。

(2) 集落・自然地

◆交通手段の確保と利用促進

集落の過疎化や少子高齢化に伴い、バス路線の廃止や小中学校の統廃合が行われるなど交通手段を確保していくことが課題となっている。秋田内陸縦貫鉄道では、利用者が減少し、厳しい運営状況が続いているが、暮らしだけでなく、観光振興においても重要であり、公共交通の軸となる路線であるため、利用を促すため他の交通機関と連動した施策が必要である。

◆冬の暮らしの安全・安心の確保

本市の北部は国の特別豪雪地帯に指定されており、寒さが厳しいことから快適に暮らすための努力が重ねられてきだが、高齢世帯の増加等により、個人レベルの負担が大きく、対応が困難となってきていることから、冬の暮らしに安心をもたらす取り組みを拡充していく必要がある。

◆農山村文化の継承

角館のささら舞や西木の紙風船上げなど地域特有の伝統的行事などが根強く残っており、地域住民や帰省客、観光客などにより賑わいを見せている。

これらの活動は地域に一体感を与え、地域自治力の向上につながるとともに、地域外との交流を創出するため、継承していく必要がある。

◆農山村・田園風景の保全

急峻な山岳地帯と谷あいを通る檜木内川、下流に広がる田園地帯と散居集落、これらにより構成される農山村・田園風景を交流資源として保全する必要がある。

◆都市と農村の交流促進

近年、農山村での体験や交流を目的とし訪れる人が増えてきている。

グリーンツーリズムなどの都市と農村の交流は、経済効果だけでなく、地域資源の再認識や再発掘、地域の人づくり、組織づくりにつながるため、農地の有効活用を図るなどの受け皿を整備する必要がある。

3 地域づくりの目標と方針

角館・西木地域 地域づくりの目標

◆目標1【市街地】◆

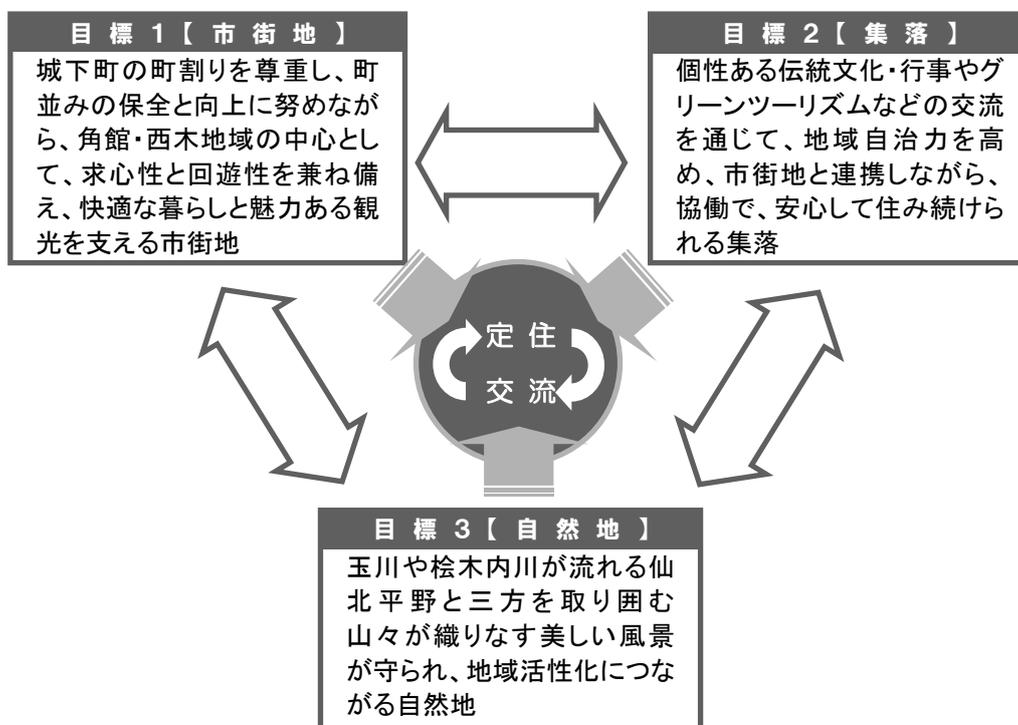
城下町の町割りを尊重し、町並みの保全と向上に努めながら、角館・西木地域の中心として、求心性と回遊性を兼ね備え、快適な暮らしと魅力ある観光を支える市街地をめざす

◆目標2【集落】◆

個性ある伝統文化・行事やグリーンツーリズムなどの交流を通じて、地域自治力を高め、市街地と連携しながら、協働で、安心して住み続けられる集落をめざす

◆目標3【自然地】◆

玉川や桧木内川が流れる仙北平野と三方を取り囲む山々が織りなす美しい風景が守られ、地域活性化につながる自然地をめざす

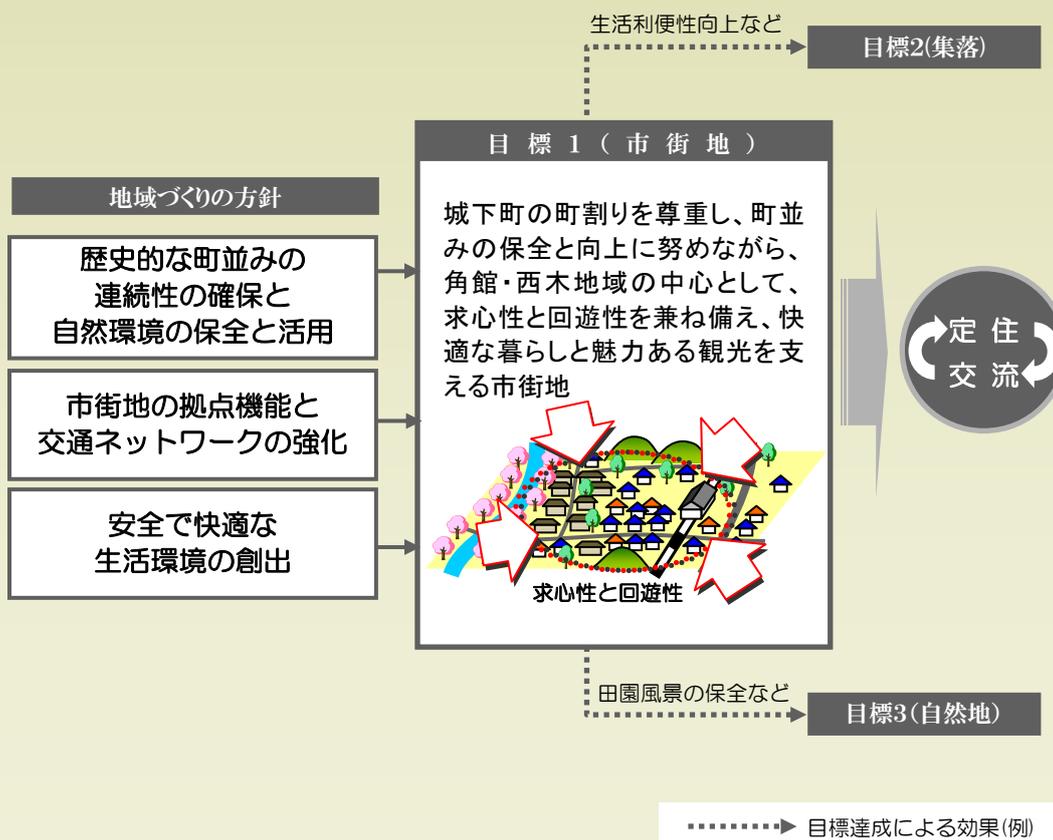


地域づくりの目標1【市街地】

城下町の町割りを尊重し、町並みの保全と向上に努めながら、
角館・西木地域の中心として、求心性と回遊性を兼ね備え、
快適な暮らしと魅力ある観光を支える市街地をめざす

角館地区の市街地は、地域交流拠点として周辺地区の生活を支える機能を担う必要がある。一方、本地区は江戸時代に城下町として栄え、今もなお、町割りや武家屋敷などが保存され、多くの観光客を集めている。

したがって、歴史的な町並みや周辺の自然環境との調和に配慮しながら、市街地の機能を新陳代謝させ、求心性と回遊性を高め、「利便性の高い暮らし」と「魅力ある観光」の両立をめざす。



地域づくりの方針【市街地】

①歴史的な町並みの連続性の確保と自然環境の保全と活用

地域づくりの方針	具体方策(例)
◇ 古くから残る武家屋敷や寺社、古樹等を適正に管理する。	➢ 重要伝統的建造物群保存地区計画
◇ 城下町の風情を活かした町並みを創出するため、適性に保全と修景を進める。	➢ 景観計画・協定 ➢ 修景・保存活動支援 ➢ 都市計画道路見直し
◇ 旧市街地の路地や水路などの佇まいを活かした、美しく魅力ある空間形成を進める。	➢ 路面舗装の高質化 ➢ 無電柱化
◇ 町並みの背景となる古城山、田町山、大威徳山、花場山などの自然環境を保全するとともに、自然とのふれあいの場、町並みを俯瞰する視点場として活用する。	➢ 特別緑地保全地区 ➢ 風致地区 ➢ 里山環境整備
◇ 桧木内川や玉川沿いに美しい親水空間を創出するため、桜並木や遊歩道などを適正に管理する。	➢ 桜並木の保全 ➢ 遊歩道・広場整備
◇ 桧木内川や玉川沿いへのアクセスを強化する。	

②市街地の拠点機能と交通ネットワークの強化

地域づくりの方針	具体方策(例)
◇ 商店街の賑わいを創出するため、空き店舗や広場、路地等を有効に活用する。	➢ 空き店舗情報バンク ➢ イベント(産直等)開催 ➢ 共同建替
◇ 角館駅の交通利便性を活かして、公共公益施設や観光産業関連施設などを誘導し、駅周辺の拠点を強化する。	➢ 未利用地の活用
◇ 角館駅東側の新たな玄関口を有効に活用するとともに駅東西のアクセスを強化する。	➢ 多目的広場の活用 ➢ 東西連絡通路
◇ 抱返り溪谷や田沢湖等の観光拠点と角館駅とを結ぶ交通ネットワークを強化する。	➢ バス発着所 ➢ シャトルバス運行

③安全で快適な生活環境の創出

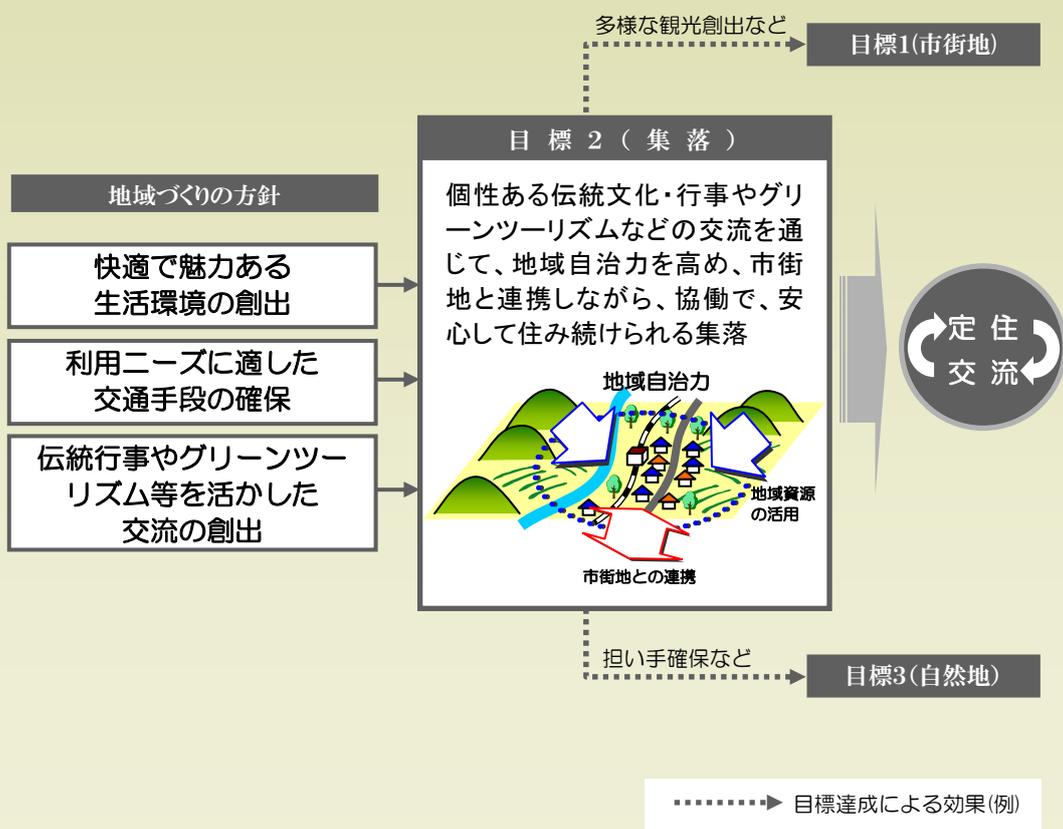
地域づくりの方針	具体方策(例)
◇ 歩行者の安全性の確保や町並みとの調和などに配慮しながら、市街地の円滑な交通を促す幹線道路の整備を進める。	➢ 街路事業 ➢ バリアフリー化
◇ 旧市街地では、町割に配慮しながらまちなか居住を進め、その他の地区では、緑豊かでゆとりある住環境を確保する。	➢ まちなか居住支援 ➢ 地区計画
◇ 公園や寺社、火除け地、その他空地などを、身近な憩いの場、あるいは避難場所、雪寄せ場として有効に活用する。	➢ 街区公園事業 ➢ 公園管理協定

地域づくりの目標2【集落】

個性ある伝統文化・行事やグリーンツーリズムなどの交流を通じて、
地域自治力を高め、市街地と連携しながら、
協働で、安心して住み続けられる集落をめざす

集落では、過疎化の進行等に伴い、地域の活力の低下を招いている。そのため、地域内の助け合いの意識を高め、行政と協働で生活環境を守っていく必要がある。

集落の中には、紙風船まつりなどの伝統的行事やグリーンツーリズムなどにより多くの観光客を迎え入れ、地域内外の交流が行われている地域がある。このような交流を推進し、地域の活力を高めながら、安心して住み続けられる集落をめざす。



地域づくりの目標2【集落】

①快適で魅力ある生活環境の創出

地域づくりの方針	具体方策(例)
◇ 集落内の生活道路や河川、公園などの身近な生活空間の維持管理を図る。	➤ 環境保全・美化活動
◇ 安心して冬を迎えられるように、除雪や雪下ろしなどの雪対策の取り組みを強化する。	➤ 除雪・雪下ろし支援
◇ 高齢世帯等を対象とした冬季限定の住まいの確保を検討する。	➤ 克雪住宅整備促進
◇ 農山村居住や滞在を促すため、都市居住等の居住ニーズを把握しながら、空き家や遊休農地を有効に活用する。	➤ 越冬住宅供給
	➤ 居住意向調査
	➤ 空き家・空き農地調査
	➤ 空き家・空き農地情報バンク

②利用ニーズに適した交通手段の確保

地域づくりの方針	具体方策(例)
◇ 子どもや高齢者などの交通手段を確保するため、秋田内陸縦貫鉄道を基軸とした公共交通網を強化する。	➤ 秋田内陸縦貫鉄道の利用促進
	➤ デマンド型乗合タクシー
	➤ 過疎地有償送迎
◇ 最寄りの駅やバス停、公共公益施設まで安心して歩ける歩行空間を確保する。	➤ 生活道路の補修
	➤ バリアフリー化

③伝統行事やグリーンツーリズム等を活かした交流の創出

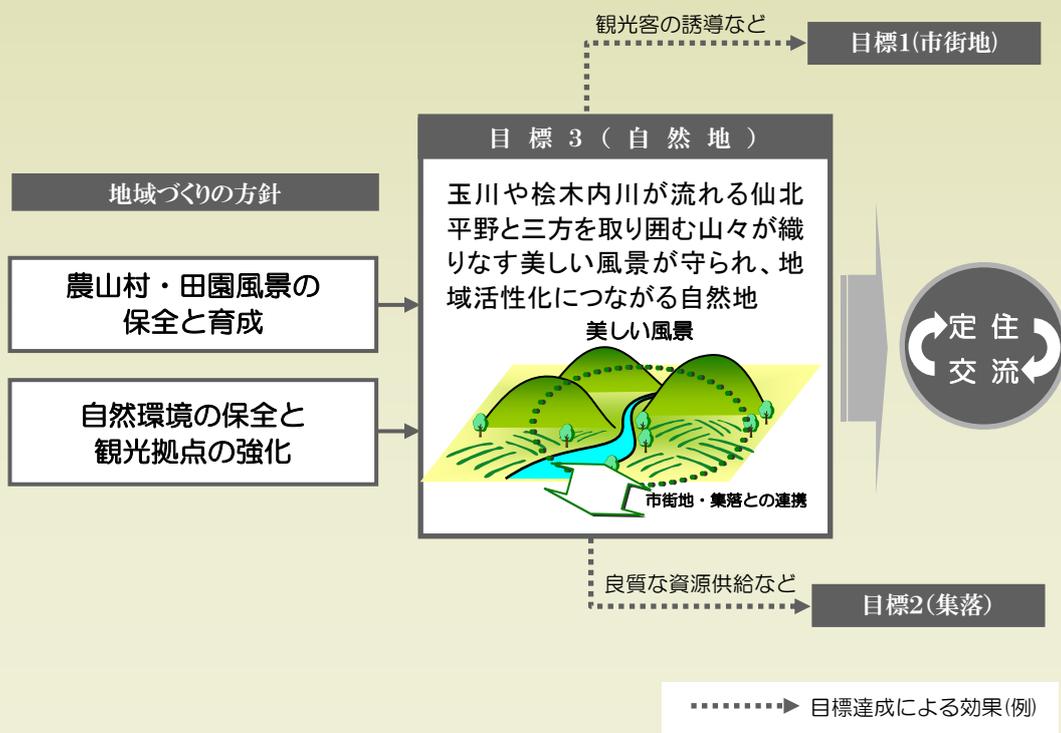
地域づくりの方針	具体方策(例)
◇ ささらや紙風船まつりなどの伝統行事等による交流の拡大や豊かな農山村資源などを活かしたグリーンツーリズムなどの推進を図る。	➤ イベント開催・情報発信
	➤ グリーンツーリズム推進
	➤ むらっこ物産館、かたくり館、紙風船館等の活用
◇ 魅力ある交流を創出するため、交流拠点施設を有効に活用するとともにアクセスを強化する。	➤ 臨時シャトルバス
	➤ 案内サインの統一

地域づくりの目標3【自然地】

玉川や桧木内川が流れる仙北平野と三方を取り囲む山々が織りなす美しい風景が守られ、地域活性化につながる自然地をめざす

地域住民の生産と生活の場である農村地域が、独特の魅力を有する優れた風景として評価が高まりつつある。秋田内陸縦貫鉄道などから望む仙北平野や山間を流れる桧木内川沿いの風景は、多くの人々を魅了するものである。

そのため、次世代に引き継ぐべき美しい自然環境を保全するとともに、多様な交流を創出する自然地をめざす。



地域づくりの目標3【自然地】

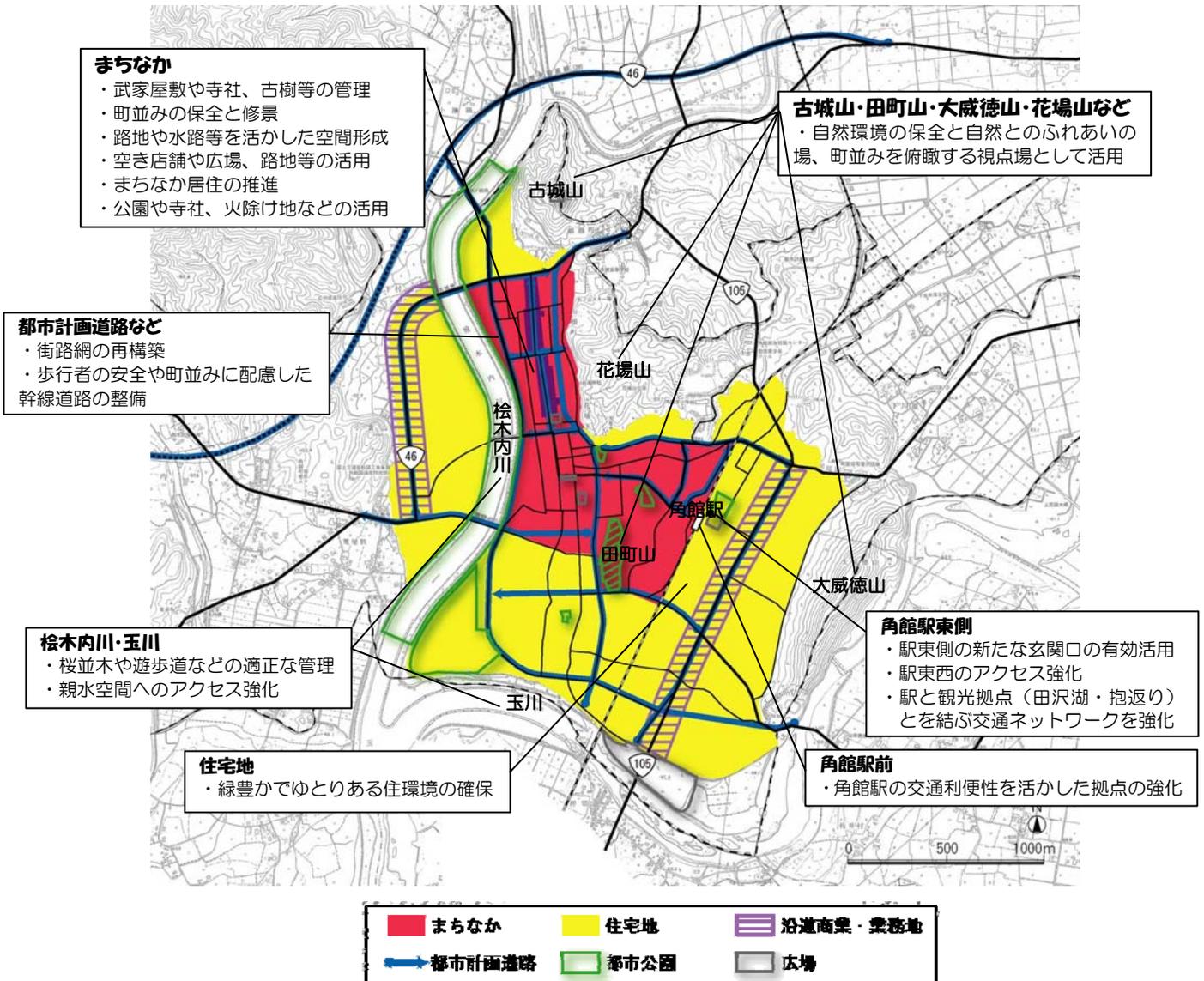
①農山村・田園風景の保全と育成

地域づくりの方針	具体方策(例)
◇ 風景の魅力を高めるため、遊休農地を活用した景観作物の作付けや沿道の植樹などを促す。	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 花いっぱい推進事業 ➤ 景観作物導入促進
◇ 風景との調和を損ねるような広告物などを抑制する。 ◇ 風景の魅力に欠かせない要素の一つとして、屋敷林や鎮守の森を保全する。	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 特定用途制限地域 ➤ 屋外広告物規制強化 ➤ 屋敷林や鎮守の杜の保全
◇ 農地を保全するとともに、優れた風景が眺望できる視点を確保する。	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 視点場調査 ➤ 視点場環境整備

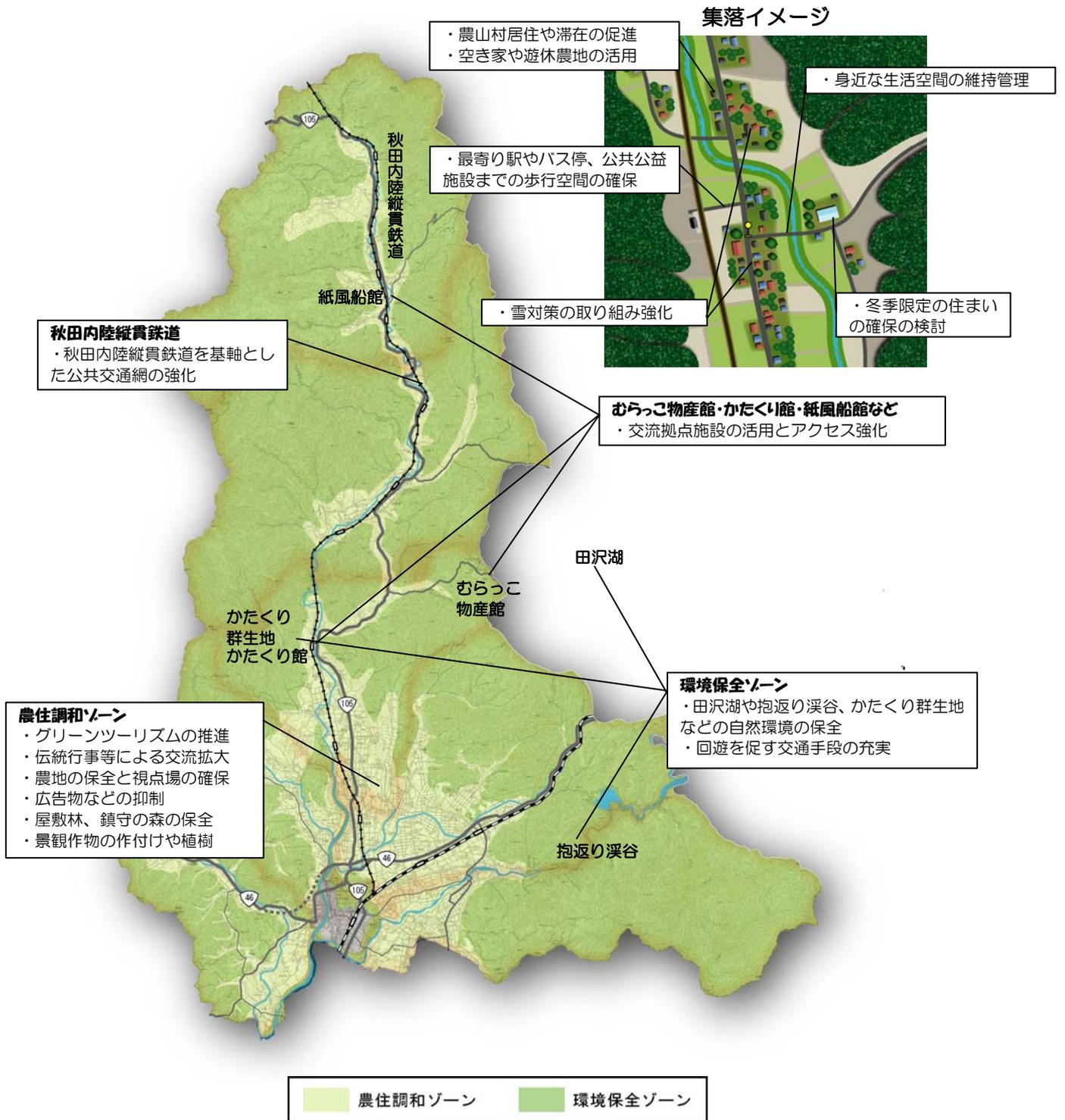
②自然環境の保全と観光拠点の強化

地域づくりの方針	具体方策(例)
◇ 田沢湖・抱返り県立自然公園やかたくりの群生地などを保全するとともに、回遊を促すため交通手段を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 環境美化活動 ➤ 臨時シャトルバス

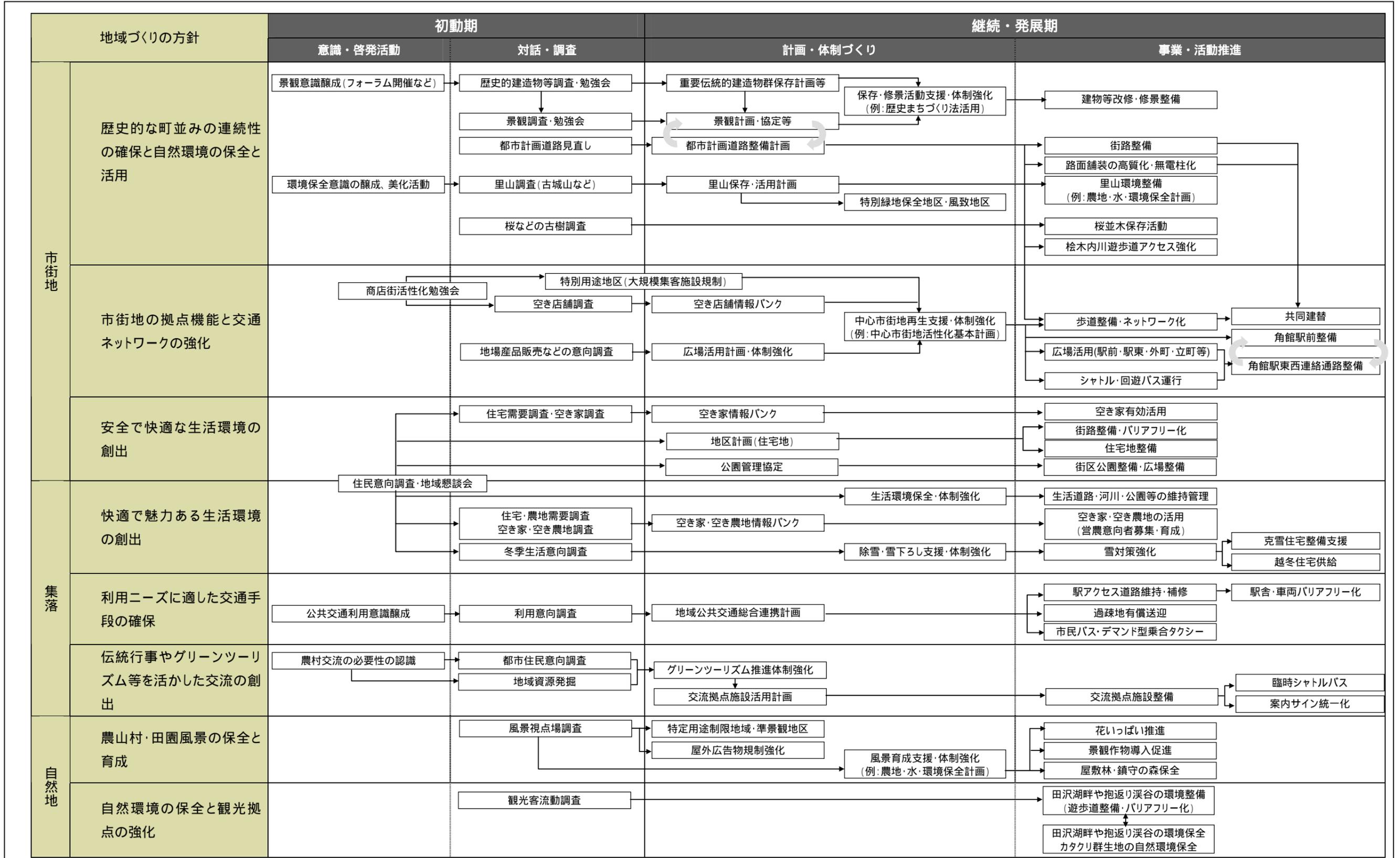
地域づくりの方針図【市街地】



地域づくりの方針図【集落・自然地】



角館・西木地域の地域づくりの展開（例）



第3章

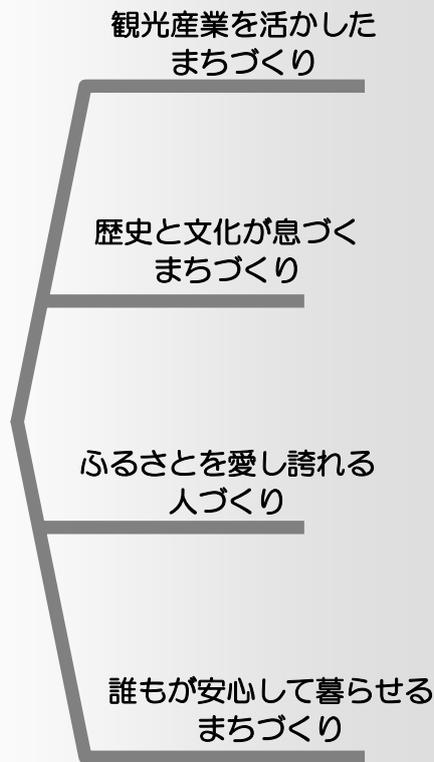
田沢湖地域

仙北市総合計画

将来像

まちづくりの理念

観光産業を活かした北東北の交流拠点都市を目指して



定住人口
～目標～
3万人維持

交流人口
～目標～
テンミリオン

仙北市都市計画マスタープラン 【全体構想】

都市づくりの目標

- 1 交流を創出する「顔」をつくる
- 2 活力を生む都市と農村の「連携・交流軸」をつくる
- 3 地域の「資源・資産」を守り、活かす
- 4 誰もが「暮らしやすい定住環境」をつくる
- 5 人を育み、助け合いにより、「自立した地域」を築く

地域づくりの目標と方針

◆目標1【市街地】◆

秋田県の東側の玄関口として、「山と湖と温泉」を活かした多様な観光交流を支えるとともに、自然と共生した、安心で、住みよい市街地をめざす

- 生活利便性の高いゆとりある住環境の形成
- 田沢湖駅前・田沢湖庁舎周辺の拠点機能の強化
- 安全で人にやさしいみちづくり

◆目標2【集落】◆

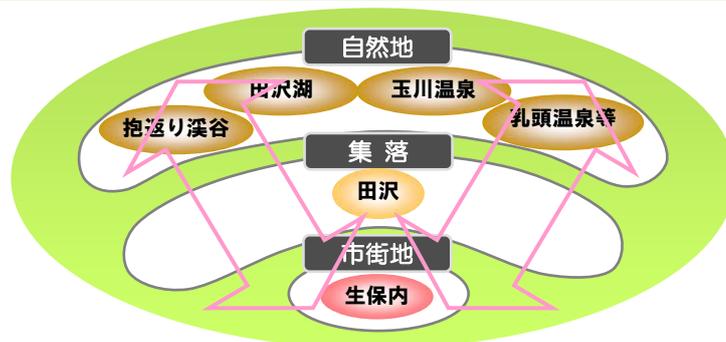
温泉や農産物などの質の高い資源を活かした交流を通じて、地域自治力を高め、市街地と連携しながら、協働で安心して住み続けられる集落をめざす

- 快適で魅力ある生活環境の創出
- 利用ニーズに適した交通手段の確保
- 温泉やミズバショウなどの自然資源を活かした魅力ある交流の創出

◆目標3【自然地】◆

十和田・八幡平国立公園や田沢湖・抱返り県立自然公園をはじめとした広大な自然環境が守られ、多様な自然の「幸」を生み出す自然地をめざす

- 安全で美しいみちづくり
- 自然環境の保全と観光拠点の強化



1 地域概況

各地区の概況は、以下に示すとおりである。

地 区	概 況
生保内	<ul style="list-style-type: none"> 秋田県の東側の玄関口であり、東西に国道 46 号と秋田新幹線が、南北に国道 341 号が通り、交通の要所となっている。 生保内平野を中心に小さくまとまった市街地が形成され、南北に集落が点在している。南部の刺巻にはミズバショウの群生地があり、観光客を集めている。 日本最深の田沢湖が県立自然公園の指定を受けており、湖畔には宿泊施設やキャンプ場、思い出の湯分校などが立地している。 北東部には秋田駒ヶ岳、乳頭山があり、中腹から裾野にかけて田沢湖高原温泉、水沢温泉、乳頭温泉が点在し、全国有数の温泉地が形成されている。
田 沢	<ul style="list-style-type: none"> 北部にはブナなどの原生林が広がり、玉川温泉などの観光地が点在する。 鎧端ダム以南に集落が小さくまとまって形成されている。 南北に国道 341 号が通っているが、冬季は一般車両が通行止めとなる。

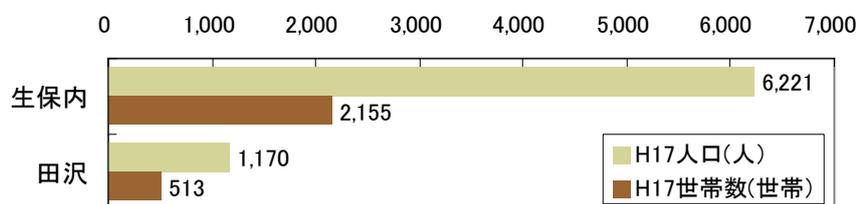


図:各地区の人口と世帯

資料:国勢調査(平成 17 年)

2 現状と課題

田沢湖地域の現状と課題を、「市街地」と「集落・自然地」に分けて整理する。

(1) 市街地

◆既存の施設等の柔軟な活用と更新

生保内地区の住宅地は、田沢湖線の北側に位置する武蔵野を中心に形成されており、文教施設などの公共公益施設が集積している。これらの施設を柔軟に活用し、子育てや高齢者生活支援を充実させるなどして、生活スタイルの変化に適応させ、定住を促す必要がある。

◆田沢湖駅や田沢湖庁舎周辺の土地や建物の有効活用

田沢湖駅や田沢湖庁舎周辺においては、利用されていない土地や建物が目立っている。秋田県東側の玄関口として魅力を高めていくことは、にぎわいを創出し、地域活性化につながることから、有効に活用していく必要がある。

◆身近な自然とのふれあい創出

生保内川や生保内公園などは、地域の身近な自然として親しまれている。生保内川沿いでは遊歩道が整備されるなど、地域内外の交流の場として利用されている。

これらの自然の魅力を最大限に引き出し、自然とのふれあいを創出していくことが必要である。

◆歩行者の安全性・快適性の確保

これまで市街地内では計画的に道路整備が進められてきたが、高齢化の進行に伴い、より歩行者にやさしいみちづくりが求められている。そのため、市街地内の主要な拠点間を結ぶ道路においては、歩行者の安全性と快適性の確保を図る必要がある。

◆自然と調和した美しい町並みの形成

観光の玄関口として、また市街地としての魅力を高めるため、周辺の山並みと調和した緑豊かな町並みを形成していく必要がある。

(2) 集落・自然地

◆交通手段の確保と利用促進

集落の過疎化や少子高齢化に伴い、田沢地区の小中学校の統廃合が行われるなど交通手段を確保していくことが課題となっている。

そのため、各地区の立地特性やニーズに応じて、効率的に公共交通サービスを提供していく必要がある。

◆冬季の安心・安全の確保

全域が国の特別豪雪地帯が指定され、寒さの厳しい地域であることから、これまでも快適に暮らすための努力が重ねられてきた。しかしながら、高齢世帯の増加などにより、個人レベルの負担が大きく、対応が困難となってきたことから、冬の暮らしに安心をもたらすため、取り組みを拡充していく必要がある。

また、玉川温泉や乳頭温泉など雪深い地域に、安心して足を運べるよう、交通手段の確保や路面環境の改良、災害対策などを進める必要がある。

◆都市と農村の交流促進

ミズバショウが群生する刺巻では、開花期には郷土料理や特産品の販売などで観光客をもてなす他、年間を通して地域内の交流を促すイベントを開催している。このような農村の質の高い地域資源を活用した交流は、経済効果だけでなく、地域の魅力の再認識や再発掘、人づくり、組織づくりにつながるため、交流を創出するための受け皿の整備を進める必要がある。

◆田沢湖の保全と環境整備

本市の象徴である田沢湖の水質改善や護岸対策、白浜再生を図り、環境の保全に努める必要がある。また、観光客が散策を楽しめるよう遊歩道の整備やバリアフリー化を進めるなどして、観光客のニーズに対応していく必要がある。

◆観光ルートの眺望確保

本地域は、全国有数の観光地であるため、数多くの観光関連施設や案内誘導看板がみられるが、観光地としての魅力をさらに高めるためには、観光ルートからの眺望に十分配慮し、背後の自然豊かな風景と調和させていく必要がある。

3 地域づくりの目標と方針

田沢湖地域 地域づくりの目標

◆目標1【市街地】◆

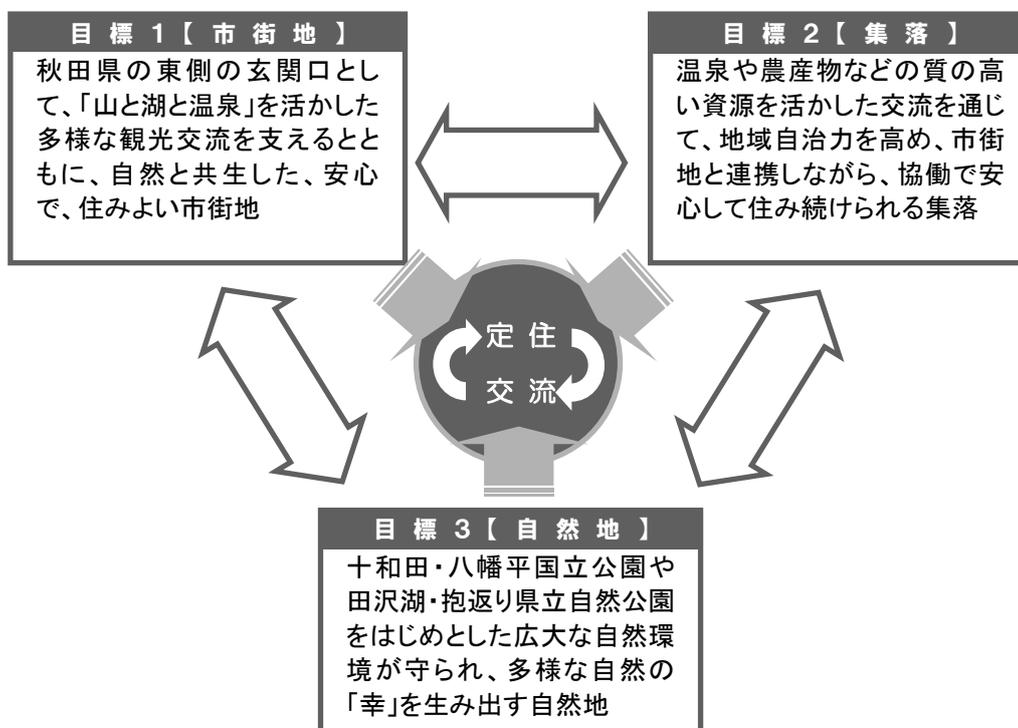
秋田県の東側の玄関口として、「山と湖と温泉」を活かした多様な観光交流を支えるとともに、自然と共生した、安心して、住みよい市街地をめざす

◆目標2【集落】◆

温泉や農産物などの質の高い資源を活かした交流を通じて、地域自治力を高め、市街地と連携しながら、協働で安心して住み続けられる集落をめざす

◆目標3【自然地】◆

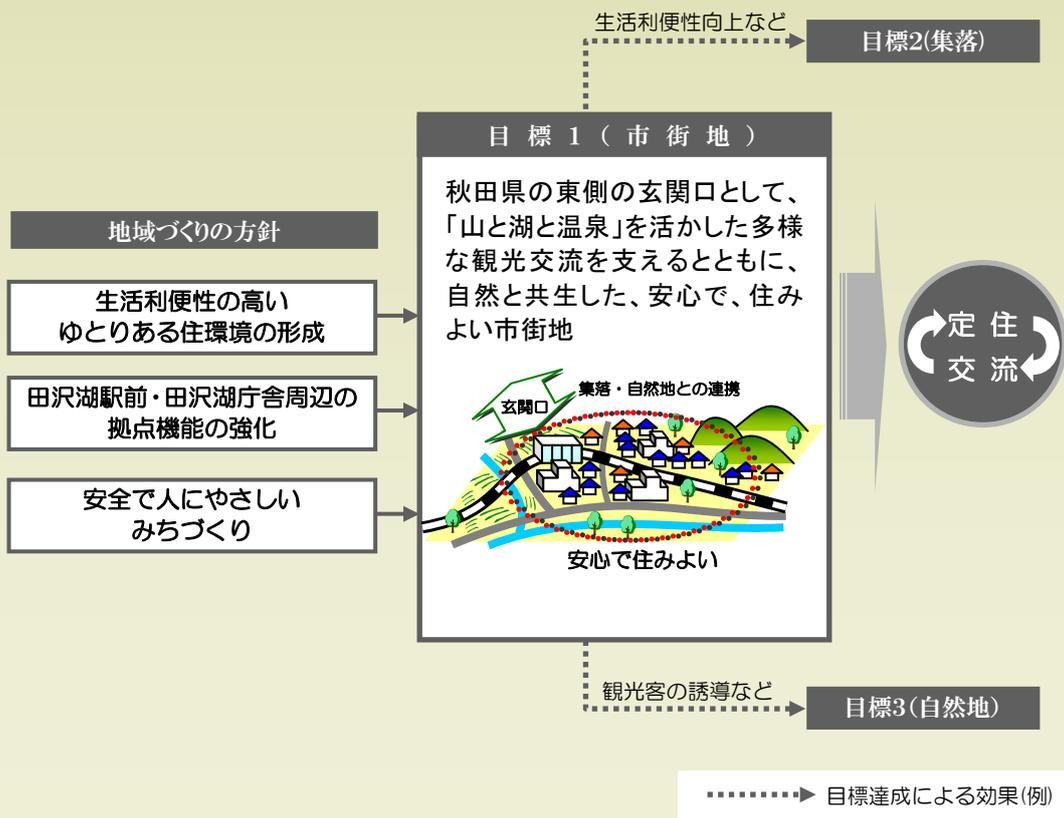
十和田・八幡平国立公園や田沢湖・抱返り県立自然公園をはじめとした広大な自然環境が守られ、多様な自然の「幸」を生み出す自然地をめざす



地域づくりの目標1【市街地】

秋田県の東側の玄関口として、
「山と湖と温泉」を活かした多様な観光交流を支えるとともに、
自然と共生した、安心して、住みよい市街地をめざす

田沢湖地域は、田沢湖や駒ヶ岳、温泉などの多様な観光資源を抱えており、多くの観光客から高い満足度を得ている。生保内地区の市街地では、田沢湖駅前広場が整備され、玄関口としての強化が進んでいる一方、日常生活においては、少子高齢化などの対応が課題となっている。そのため、秋田県の東側の玄関口としてもてなしを向上させるとともに、多様な生活ニーズに対応できる、住みよい市街地をめざす。



地域づくりの方針【市街地】

①生活利便性の高いゆとりある住環境の形成

地域づくりの方針	具体方策(例)
◇ 子育て世帯や高齢者世帯の暮らしを支えていくため、公共公益施設を柔軟に活用する。	➤ 公共公益施設更新
◇ 利用しやすい公園にしていくため、利用者のニーズに合った整備とともに、協働による維持管理を進める。	➤ 公園整備 ➤ 公園管理協定
◇ 生保内川の清流や緑豊かな生保内公園の散策が楽しめるよう環境整備とネットワーク化を図る。	➤ 遊歩道整備 ➤ アクセス強化

②田沢湖駅前・田沢湖庁舎周辺の拠点機能の強化

地域づくりの方針	具体方策(例)
◇ 田沢湖駅前に賑わいを創出するため、駅前広場や駅構内を有効に活用する。	➤ イベント(産直等)開催
◇ 交通結節点として田沢湖駅前の交通機能を強化するとともに、観光案内を充実させる。	➤ 交通・観光情報の充実 ➤ アクセス道路の高質化
◇ 田沢湖駅周辺の空き地や空き家を有効に活用する。	➤ 空き家情報バンク
◇ 国道 46 号の交通利便性を活かし、田沢湖庁舎周辺の空き地の有効活用を図る。	➤ 地区計画

③安全で人にやさしいみちづくり

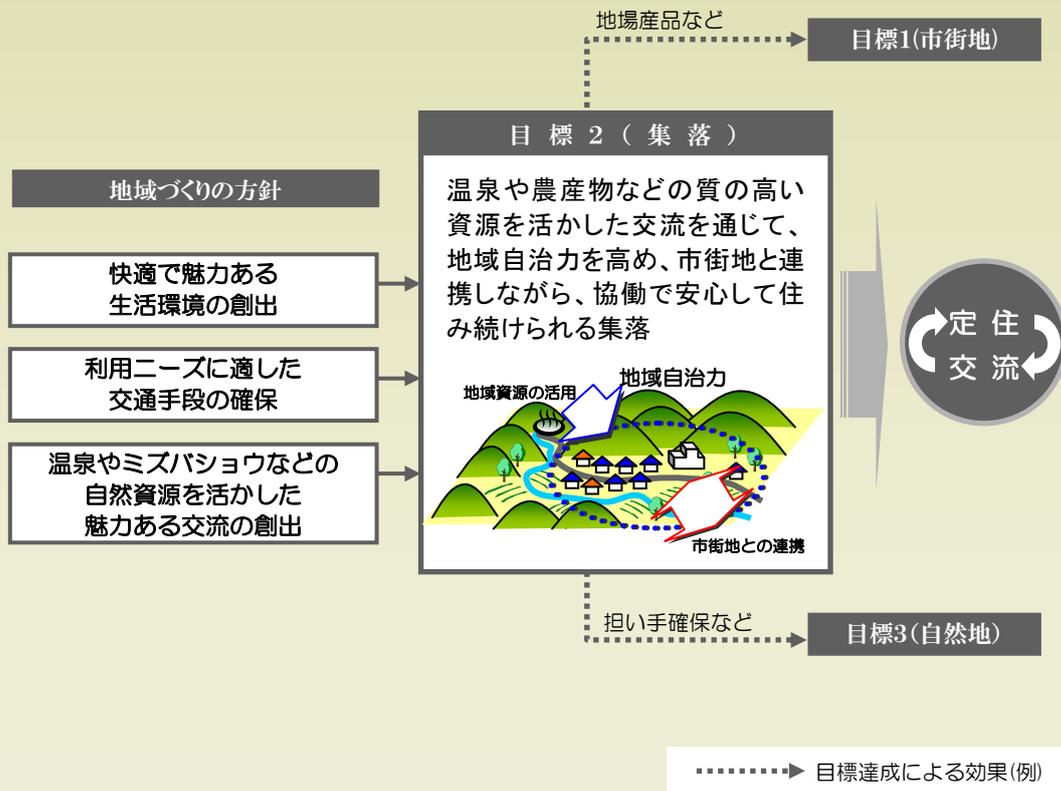
地域づくりの方針	具体方策(例)
◇ 安全でゆとりある歩行空間を確保するため、バリアフリーに努めながら、適正に道路を更新する。	➤ 歩道整備 ➤ バリアフリー化
◇ 歩行者がくつろぎ、語らう空間を適正に配置する。	➤ ポケットパーク整備

地域づくりの目標2【集落】

温泉や農産物などの質の高い資源を活かした交流を通じて、
地域自治力を高め、市街地と連携しながら、
協働で安心して住み続けられる集落をめざす

集落では、過疎化の進行等に伴い、地域の活力の低下を招いている。そのため、地域内の助け合いの意識を高め、行政と協働で生活環境を守っていく必要がある。

集落の中には、刺巻のミズバショウなど地域資源を活かして多くの観光客を迎え入れ、地域内外の交流が行われている地域がある。このような交流を推進し、地域の活力を高めながら、安心して住み続けられる集落をめざす。



地域づくりの目標2【集落】

①快適で魅力ある生活環境の創出

地域づくりの方針	具体方策(例)
◇ 集落内の生活道路や河川、公園などの身近な生活空間の維持管理を図る。	➤ 環境保全・美化活動
◇ 安心して冬を迎えられるように、除雪や雪下ろしなど、雪対策の取り組みを強化する。	➤ 除雪・雪下ろし支援 ➤ 克雪住宅整備促進
◇ 草薨家をはじめとした古民家を適切に管理し、有効に活用する。	
◇ 農山村居住や滞在を促すため、都市住民等の居住ニーズを把握し、空き家や遊休農地を有効に活用する。	➤ 居住意向調査 ➤ 空き家・空き農地調査 ➤ 空き家・空き農地情報バンク

②利用ニーズに適した交通手段の確保

地域づくりの方針	具体方策(例)
◇ 子どもや高齢者などの通学・通院手段を確保する。	➤ 市民バスの利用促進
◇ 利便性を高めるため、バスルートや運行時間などの工夫を民間と連携して進める。	
◇ 最寄りの駅やバス停、公共公益施設まで安心して歩ける歩行空間を確保する。	➤ 生活道路の維持補修

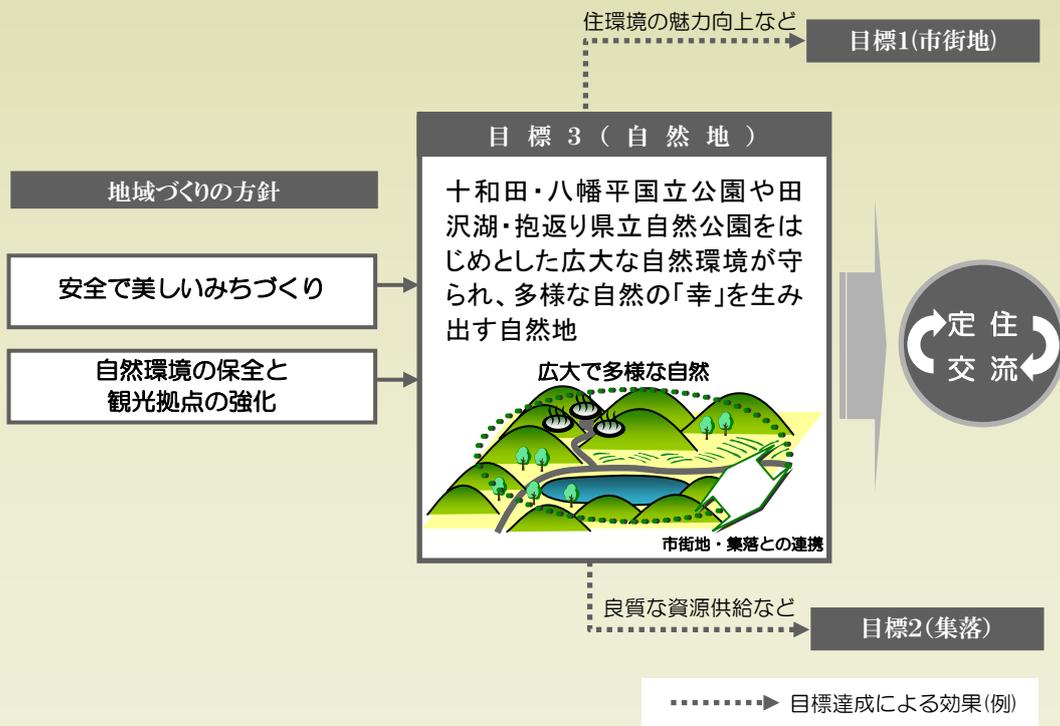
③温泉やミズバショウなどの自然資源を活かした魅力ある交流の創出

地域づくりの方針	具体方策(例)
◇ 山菜やミズバショウなど地域資源を活かして、集落に観光客を誘導するため、交流拠点とアクセスを強化する。	➤ イベント開催・情報発信 ➤ 広場整備 ➤ 廃校利用 ➤ 案内サインの統一整備

地域づくりの目標3【自然地】

十和田・八幡平国立公園や田沢湖・抱返り県立自然公園を
はじめとした広大な自然環境が守られ、
多様な自然の「幸」を生み出す自然地をめざす

田沢湖地域の大部分を占める自然環境は多面的な役割を担っているため、一体的に保全していくことが重要であるとともに、これらの自然環境から生み出される恵みをより多くの人々と分かち合うことができる自然地をめざす。



地域づくりの目標3 【自然地】

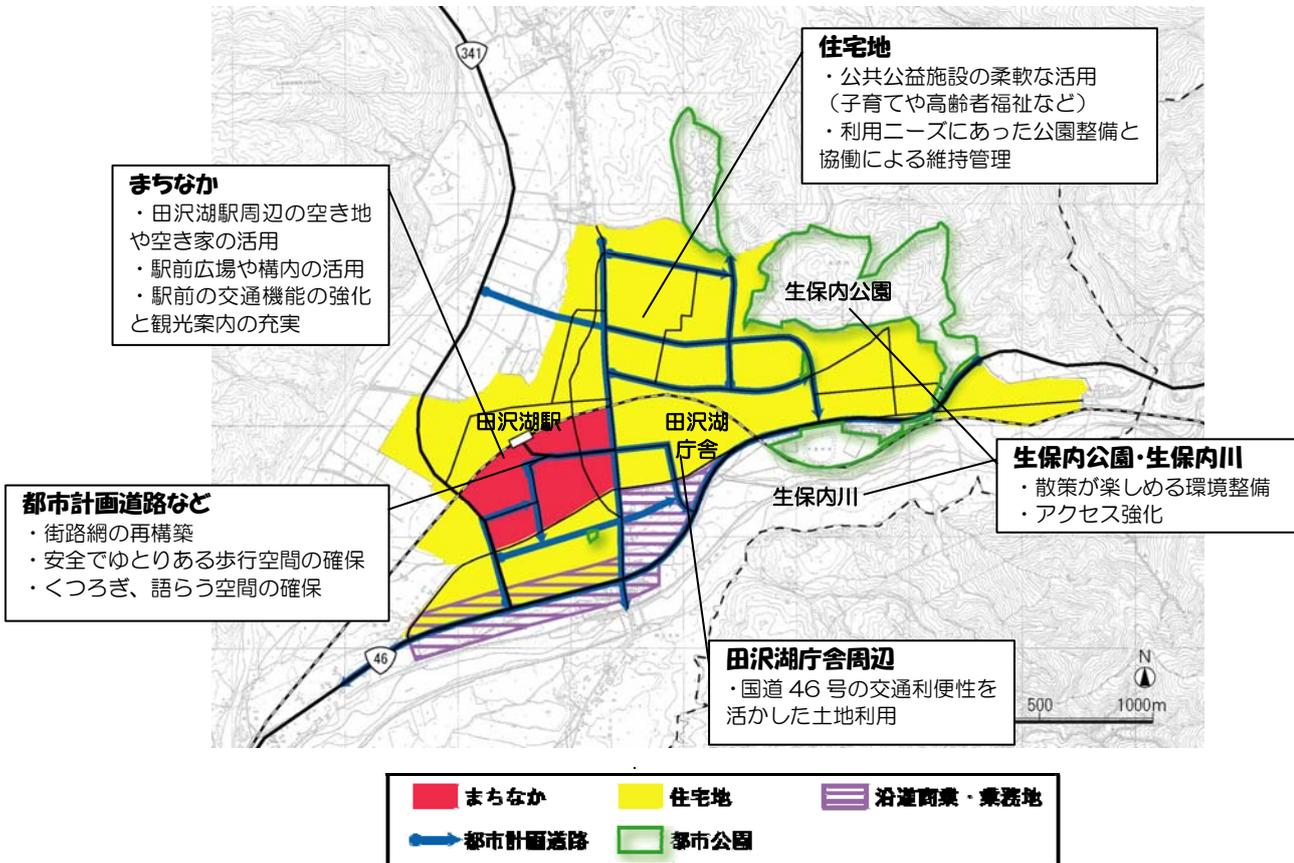
①安全で美しいみちづくり

地域づくりの方針	具体方策(例)
◇ 玉川温泉や乳頭温泉などに安心して足を運べるように防災強化を進める。	➤ 雪害対策
◇ 冬季においても安全かつ快適に温泉などの観光地にアクセスできるように、公共交通を確保する。	➤ シャトルバス運行
◇ 美しい風景でもてなすため、田沢湖高原のそばの花などの景観作物の作付けや沿道の植樹などを促す。	➤ 花いっぱい推進事業 ➤ 景観作物導入促進
◇ 建築物等については、田沢湖畔や駒ヶ岳などの美しい風景との調和に配慮する。	➤ 景観計画 ➤ 屋外広告物条例
◇ 広告物の設置にあたっては、周辺の風景と調和したデザインとする。	
◇ 農地を保全するとともに、優れた風景が眺望できる視点を確保する。	➤ 視点場調査 ➤ 視点場環境整備

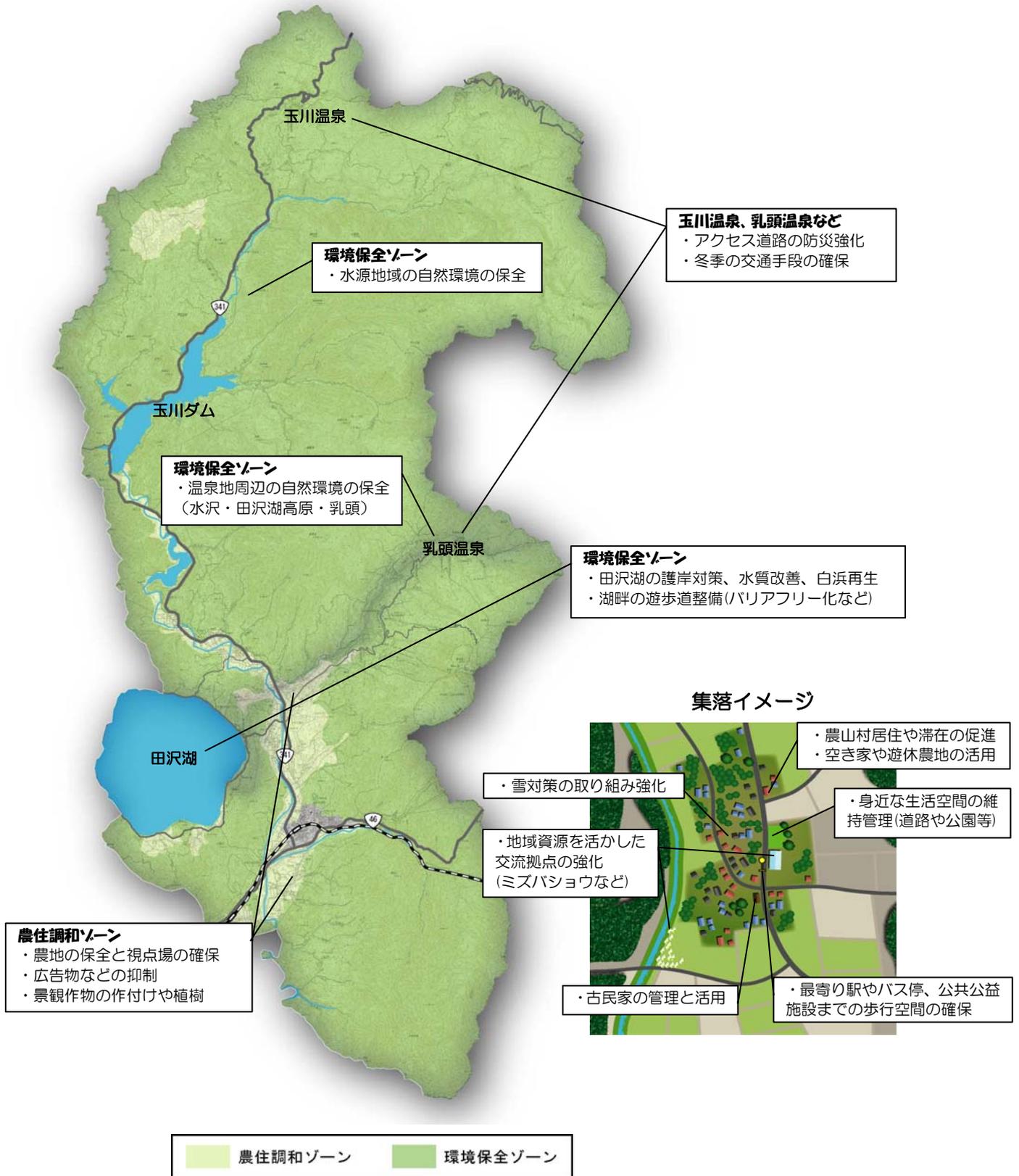
②自然環境の保全と観光拠点の強化

地域づくりの方針	具体方策(例)
◇ 水源地域として、また温泉地域として、広大な自然環境を適正に保全する。	➤ 自然公園法 ➤ 森林法(保安林)
◇ 田沢湖の護岸対策や水質改善、白浜再生に努めるとともに、湖畔の遊歩道の整備を図る。	➤ 遊歩道整備 ➤ バリアフリー化

地域づくりの方針図【市街地】



地域づくりの方針図【集落・自然地】



田沢湖地域の地域づくりの展開（例）

